

福岡県の代表的な祭り

※2021年は新型コロナウイルス感染症の影響により、行事の中止又は大幅な変更が行われています。

鬼夜 (久留米市)

■ 時期 : 1月7日



「鬼夜」は、1600年余りの伝統があり、日本三大火祭りの一つに数えられるとともに、国の重要無形民俗文化財に指定されている祭りです。大晦日の夜から正月7日までの「鬼会(おにえ)」の最終日に行われ、行事を飾る大松明廻しは、直径約1m、全長13m、重さ1.2トンの6本の大松明が締め込み姿の人たちによって支えられ、火の粉を散らしながら本殿の周りを勇壮に廻ります。

川渡り神幸祭 (田川市)

■ 時期 : 5月第3土曜日とその翌日の日曜日



風治八幡宮 川渡り神幸祭は、県の無形民俗文化財第1号に指定されており、450年以上続く筑豊地区を代表する祭りです。運行する神輿では日本最大級の大神輿を先頭に、幟山笠が彦山川を渡り、若衆が水を掛け合います。この勇壮で、絢爛豪華な川渡り神幸祭が終わると、筑豊はもう夏。この祭りを合図とするかのように、田植えが始まります。

博多祇園山笠 (福岡市博多区)

■ 時期 : 7月1日~15日



770年以上の伝統があり、国の重要無形民俗文化財に指定されている、博多を代表する勇壮な夏祭りで、平成28年12月にユネスコ無形文化遺産に登録されました。福岡の博多部を中心に行われ、期間中は街の各所に「飾り山」が飾られます。クライマックスは15日早朝の「追い山」で重さ1トンの「昇き山」を担いだ、揃いの法被に締め込み姿の男たちが博多の街を駆け抜けます。「オイサッ、オイサッ」の勇壮な掛け声が響き、博多の町に夏本番を告げます。

小倉祇園太鼓 (北九州市小倉北区)

■ 時期 : 7月第3土曜日を挟む3日間(太鼓共演大会は、第3土曜日)



映画「無法松の一生」でも知られ、400年の歴史を持つ勇壮・優美な太鼓祇園で、県の無形民俗文化財に指定されています。まさにその名のとおり勇壮な太鼓の音が主体の賑やかな祭りで、両面打ちの太鼓の響きは腹の底にこたえる感覚を人々に与えます。賑やかなチャンガラ(摺り鉦)と全国的にも珍しい両面打ちによる太鼓の音が、夏の小倉を祭り一色に染めます。

おおむた大蛇山まつり (大牟田市)

■ 時期 : 7月第4土曜日とその翌日の日曜日



毎年、7月下旬に開催される筑後地方を代表する夏まつり。各地区から繰り出された長さ10m以上もある大蛇山が火煙を吹きながら街を練り歩く姿は圧巻です。祇園六山巡行、港まつり、一万人の総踊り、花火大会など期間中は約40万人の人出で賑わいます。

戸畑祇園大山笠 (北九州市戸畑区)

■ 時期 : 7月第4土曜日を挟む3日間



国の重要無形民俗文化財に指定され、昼は幟山笠、夜は提灯山笠が楽しめる祭りで、平成28年12月にユネスコ無形文化遺産に登録されました。昼は4基の大山笠が古式ゆかしい幟旗12本を立てて街を練り歩き、夜は1基につき309個の提灯を12段に重ね、高さ10メートル、重さ2.5トンの提灯大山笠に姿を替えます。8基の山笠が一堂にそろう大山笠競演会は、見る人の心を魅了します。

